

## 経営プランの評価についての委員意見

H30. 10月

項 目		委 員 意 見	
事業別事項	1 電 気 事 業	①供給電力量 (CO2 排出量削減)	○発電施設の改修・運営に PFI 手法導入を積極的に対応しており、今後に期待する。 なお、PFI 導入にあたっては、利益は民間、リスクは企業局とならないよう留意すべきである。 ○天候不順への対策も検討していくべき。 ○新エネルギーについては、一定の期限を設定した上で、調査を継続してほしい。
		②売電方法の見直し	○地域新電力への電力供給を積極的に行っており、今後もいい形で進めていただきたい。
		③発電所リニューアル事業の実施及び検討	①②と同様
		④経常収支比率	○電気事業の赤字はあまり好ましいものではないが、災害等によるものであり、やむを得ない。
		⑤地域貢献	○電気事業から一般会計への繰出しを通じた地域貢献を進めており、今後に期待する。 ○小水力発電所の地元管理については、今後地元で活力や理解が生まれるようなあり方の検討が望まれる。
	2 工 業 用 水 道 事 業	①新規需要開拓	○産業構造の変化により工業用水の位置づけが変わっている中で、需要開拓に一定の努力は認められる。今後は、更に、訪問先の情報収集・整理を行い、効果的な事業所訪問により一層取り組まれたい。
		②施設の適正管理（日野川）	○計画的な漏水対策を行い適正に管理しており、今後も計画的に進めていただきたい。なお、経営は厳しいが、引き続き施設の更新、耐震化も検討されたい。
		③経常収支比率	○2億円以上の赤字を計上しているものの、経常収支比率は目標を若干上回っている。なお、PFI 導入のあり方については、趣旨を踏まえた進め方が必要である。
	3 埋 立 事 業	土地の分譲	○今後の埋め立て事業の在り方検討は、更なる先進的な検討を希望する。例えば、個別立地企業の要望に応じた工業団地の質の管理を考えることも必要か。
	4 共 通 事 項	人材育成と業務体制の効率化	○質のいい仕事とワークライフバランスの両立は難しく、効率化に関しては、あまり無理な計画を立てないほうがよい。 ○経営改善には、同じ意識をもつ人間が複数必要であり、多くの職員が研修等を通じて様々な話を聞く機会を設けるべき。
その他・総括的事項		○工業用水事業や埋立事業は着実に事業を進める一方で、電気事業では FIT の適用や発電所の改修・運営への民間活力導入等新たな取り組みを進めており、将来を見据えた舵取りを期待したい。 ○企業局の取組が地域貢献や工業用水道事業のパイオニアになってほしい。	